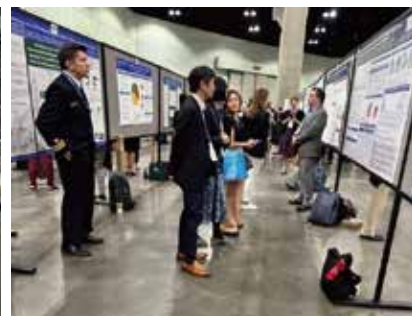
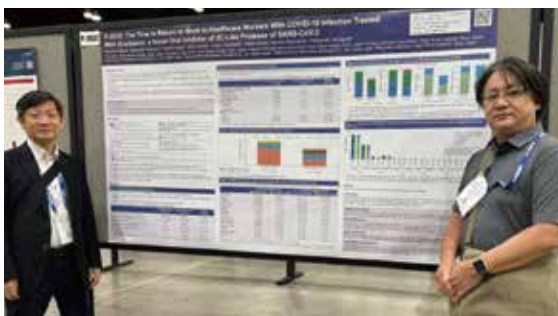


当院のコロナ診療について国際学会で発表しました

東京臨海病院 薬剤科科长 勝田 誠、感染管理認定看護師 長井 直人

2024年10月15～19日にロサンゼルスコンベンションセンターで開催されましたIDWeekにて、**COVID-19 第9波時の当院医療従事者に対する抗ウイルス薬投与の効果**を後方視的に行った調査研究についてポスター発表をしました。

IDWeek: Infectious Disease Week とは、米国の感染症協会（IDSA）、小児感染症学会（PIDS）、医療疫学協会（SHEA）、HIV 医学協会（HIVMA）、感染症薬剤師協会（SIDP）の5学会合同の年次総会であり、世界中から感染症関連の専門家が集まる感染症領域では世界最大の国際学会です。会場は 67,000 m²と広大で、連日 50～70 のセッション、ポスター発表も約 2,400 演題と日本の学会とは比べようにならない規模で驚きの連続でした。発表ポスターは Web 上で示説音声付きで閲覧可能であり、現地ではカテゴリーごとに約2時間の討論時間が設けられ、当院のポスターにも当日は 10 名程の参加者が興味をもって質問にきてくださり大変盛況でした。



当院では、2020年2月にクルーズ船の感染者を受け入れてから、一貫して全職員でコロナ診療に従事し、これまで5,000名を超える患者さんを診療してきました。その結果、多くの患者さんの命を救うことができ、また地域医療にも大きく貢献し、多くの住民や行政の方々、医療関係者に当院を知ってもらえるきっかけになりました。その約5年間の東京臨海病院の取組・成果について、今回はほんの一端ではありますが、国際学会での発表という形で当院の歴史の1ページに記録を残せたのではないかと考えております。

